平成28年中の主な活動等

1　主な火災の概要

火災の様相は年々複雑になり、消防活動の困難性や特殊性が高まっています。

このような中、あらゆる火災に迅速的確に対応するため、精強な消防部隊を育成、配備し、火災から都民を守るため日夜訓練と警戒にあたっています。

1－1　木造密集地域の火災

＜火災概要＞

平成 28 年 4 月、新宿区の木造建物が密集した飲食店街において、計 4 棟 306 ㎡を焼損する火災が発生しました。この火災で、けが人 1 名が発生しました。

写真 1　放水開始・立ち上がる白煙

写真 2　隣棟への延焼を阻止

＜時系列＞

時間（覚知からの経過）	内容	時間（覚知からの経過）	内容
13：33（～0：00）	覚知（119）	17：42（～4：09）	鎮圧
13：51（～0：17）	第2出場	19：32（～5：59）	鎮火

＜活動概要＞

消防隊到着時、火元建物から火炎が激しく噴出し、隣接建物へ延焼拡大している状況であり、現場指揮本部長の応援要請によりポンプ車などを増強出場させ、ポンプ車 20 台を含む計 43 台の消防車両が出場し対応しました。

また、地元消防団も 44 名出場し、消防署隊と連携した消火活動を行い、覚知から約 6 時間後に鎮火しました。

＜その他＞

火災のあった 2 つの商業組合は、区と連携し、災害の未然防止・被害の軽減を図るため 10 月に防災区民組織を立ち上げるとともに、地元消防署の協力の下、多くの飲食店経営者や従業員が参加した実戦的な自衛消防訓練・防災訓練を行いました。

また、翌年には消火栓の増設やスタンドパイプを新規に設置しました。

写真 3　地元消防団による放水

写真 4　密集地で活動する消防隊

写真 5　木造密集地の火災

1－2　航空機火災

＜火災概要＞

5 月、東京国際空港で航空機火災が発生しました。この火災により、シューターで機外へ脱出した乗員乗客のうち、19 名のけが人が発生しました。

＜活動概要＞

国土交通省航空局（CAB）から航空機火災の通報を受けた当庁は、大型化学車などを出場させ、最終的に化学消防車 6 台、救急車 14 台を含む 62 台の消防車両を投入し対応しました。

当庁の消防隊が空港内に到着した時、CAB 消防隊の大型化学車により一時的に初期消火されていたため、当庁は泡放射ノズルを活用し完全消火を実施しました。

また、到着後の情報収集で、機外脱出時に多数のけが人が発生していたことが判明したため、救急隊の増強出場やスーパーアンビュランスなどを出場させ、けが人 19 名のうち 12 名を医療機関に搬送しました。（他の 7 名（軽症）は、医療機関への搬送を辞退し、現場で救急処置を実施しました。）

＜その他＞

その後、CAB と連携し、当庁の消防隊が更に迅速に空港集結を可能とする方策を講ずるなど、各種取組を推進しています。

写真 6　泡消火剤の放射

写真 7　機内逃げ遅れの有無の確認

写真 8　受傷した乗客のトリアージ

写真 9　滑走路に避難した乗客

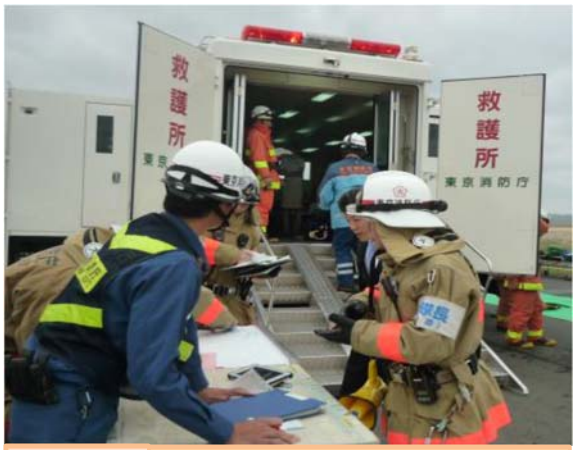

写真 10	スーパーアンビュランスを活用した救護活動

写真 11	スーパーアンビュランス内部の活動状況

＜時系列＞

時間（覚知からの経過）	内容	時間（覚知からの経過）	内容
12：44（～0：00）	覚知（専用電話）	14：21（～1：37）	鎮圧
13：33（～0：49）	救急特別第 1 出場	15：09（～2：25）	鎮火